

## アイヌ口承文芸「散文説話」

## —河童に助けられた男の物語—

大谷洋一

- 目次 1 まえがき
- (1) 本編のあらすじ
- (2) アイヌ語による河童の物語一覧
- (3) 散文説話に登場する河童
- 2 アイヌ語テキストと対訳
- 3 日本語テキスト

Key Words アイヌ (Ainu)、口承文芸 (Oral literature)、河童 (Kappa)

## 1 まえがき

本稿で紹介するテキストは、沙流郡平取町ペナコリ出身の上田トシ氏 (1912～2005) が伝承していたアイヌの散文説話 (ウエペケレ) である。アイヌ語と日本語の語りの採録は2002年3月15日に上田氏の自宅で筆者が行った<sup>(1)</sup>。上田氏自身は、姉の木村キミ氏 (1900～1988) から伝え聞いた物語と述べられている。

本編では「ミントウチ カムイ mintuci kamuy」という神が登場し、上田氏による日本語の語りの中ではそれを「カッパ (河童)」と訳している。日本昔話でカッパは、北東北のメドチ、関東のカッパ、中部のガタロ、北陸のガメ、近畿のガタロ、九州のセコやヒョウスベ等、地域によって多様な異名を持つことで知られている<sup>(2)</sup>。

本テキストのアイヌ語で河童を意味する「ミントウチ」という呼び名は、田村すず子によれば「ミズチ」が語源である<sup>(3)</sup>。日本における河童は、中世～近世初期においては、「水中の猿」とイメージされていたが、現在のような甲羅を背負って頭に皿をのせた人型の容姿の河童は江戸時代中期以降からイメージされてきたと言われている<sup>(4)</sup>が、アイヌ口承文芸では河童の容姿を物語る場面はほとんどない。

## (1) 本編のあらすじ

十勝の上流域で両親と何不自由無く暮らしていた私は父親から「十勝の下流に住む知り合いの家に、若い娘がいるから嫁にもらって来い。」と言われて旅に出た。父親から教えられた川辺に倒木があり、その下に泊まることにした。そこをきれいに掃除してから、一晩泊まることを水の神に報告し、木幣を立てて祈りを捧げた。食事の準備をしていると河童が現れてお互いに礼拝を交わして一緒に食事をすると、河童が「あなたの向かっている村は明日の夜に夜盗に襲われるが、自分が全てやっつけてやるから、あなたの手柄にきなさい。そのことは誰にも言わないようにきなさい。」と述べた。翌日、私が村へ行くと村人は宴会の準備をしていた。村人は「ちょうどよいところへ若者が来た。」と喜んで私を迎え入れてくれた。私は家々の火を消させて留守のように見せかけるように指示した。村人を一カ所の家に集めて宴会を始めると、村人がすぐに全て眠ってしまった。私はその家の灯りも火も消した。その後に河童が家に入って来たので、私は河童に礼拝しながら酒を注いだ。すると村にやって来た夜盗の群は、家々が留守なことに不審な心持ちでひそひそと喋りながら忍び寄ってくるのがわかった。すると河童が外に出て夜盗の群を一人で全滅させた。河童は私に「あなたが帰る途中で、また会いに行くつもりだ。」と言い残して去った。朝になって村人が目覚める

大谷洋一：北海道博物館アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

(1) 旧北海道立アイヌ民族文化研究センターにおける資料番号はCC001194。公開資料番号：CC800240。採録時に平取町立二風谷アイヌ博物館の職員である吉原秀喜氏と藤井直江氏のほか、上田トシ氏の甥である川上勇治氏が同席して同時に録音している。

(2) 河童は他に「があたり、かあば、がーら、かーらんべ、がーらんべ、がおら、がおろ、がご、がっぱ、がらんどん、がろ、かわっぱ、がわっぱ、がわっぱ、かわんし、ごーご、ごーら、ごーらいぼうし、すいてんぐう【水天宮】、すじんどん、どんがす、みっしどん、わろ」等の呼称がある。小松ほか編 (2013: 143)。

(3) 田村 (1996: 389)。

(4) 小松ほか編 (2013: 141-145)。

と、たくさんの人が外で死んでいるのを見て、この夜盗の群を退治したのは私なのだと思いますと感謝の言葉を述べていろいろな宝物を私に贈ろうとした。しかし、私はそれを辞退して「それよりも村長の娘さんを嫁にほしい。」と答えると、村長は「それは、なおさら良いことだ。」と喜んで娘を嫁にくれた。その村で二、三日祝宴をあげてから私は娘を連れて帰る途中で、野宿する場所に着くと疲れた娘は眠ってしまった。そこへ河童の神が

現れて私に「今回のことはあなたの父親だけに話して、自分に対して固い御幣や酒で祭ってくれたらよい。」と述べた。私は帰宅してから父親に事の次第を話すと、父親がたいそう喜んで河童を祭った。その後、夜盗の群に襲われそうになった村人と交流をしながら私は老いたので、子どもたちに「河童のおかげで助かったのだから、それを忘れないで河童のことを祭ってくれ。」と言ひ残して亡くなった。

## (2) アイヌ語による河童の物語一覧

管見によれば、河童が登場する物語でアイヌ語による物語のテキストは以下の通りである。

連番	ジャンル	表題	書名	著者	発行年	伝承者	伝承地	カッパを指すアイヌ語
1	散文 説話	(なし)	吉田巖 遺稿資料 (ア08Y3)	吉田巖	不明	不明	不明	huntuchi
2	神話	神話100 染退人の酋長の自叙	アイヌ叙事詩 神話・聖伝の研究	久保寺逸彦	1977	平賀エテノア	平取	Mintuchi tono
3	神話	神話101 染退人の自叙	アイヌ叙事詩 神話・聖伝の研究	久保寺逸彦	1977	平目カレピア	平取	Mintuchi/ Ainu/Mintuchi sekor a-ye kamui
4	散文 説話	2.Uwepeker ウウエペケレ 民話(2) A=KOR EKASI I=RESPA HINE アコロ エカシ イレシパヒネ 私はおじいさんに育てられて(熊に狙われた娘がカッパに助けられる話)	アイヌ語音声資料10	田村すず子	1997	川上まつ子	平取	Mintuchi tono/ a=ukoeramewnin kamuy/ kamuy
5	散文 説話	アイヌ口承文芸テキスト集3 白沢ナベ口述 トパットウミから逃れたウライウシナイの少年	ユーラシア言語文化論集第5号	中川裕	2002	白沢ナベ	千歳	mintuci/ kamiyasi
6	神話	ミントウチカムイ イケスイモトホ(ヘムノエ) カッパが去ったわけ	アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業第2年次(北海道沙流郡平取町)調査報告1/3	(未記入)	2015	平賀さだも	日高	ar kameasi/ pon rupne aynu/ arwenkamuy/ wen kamuy
7	神話	シペチャリ ミントウチ(ヘムノエ) 静内川の河童	アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業第2年次(北海道沙流郡平取町)調査報告2/3	(未記入)	2015	鍋澤ねぶき	平取	mintucikamuy
8	散文 説話	河童神の恋	アイヌ民族博物館 民話ライブラリ2 上田トシの民話2	安田千夏	2015	上田トシ	平取	mintuci tono
9	散文 説話	河童に助けられた男の物語	北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要第1号	大谷洋一	2016	上田トシ	平取	mintuci kamuy

河童の伝承がアイヌ語で報告されたものは本編を含めて9編ととても少なく、近年の録音テープの聞き起こしによる刊行物によるものが多い。また、採録地域も連番1の不明な地域<sup>(5)</sup>以外では千歳及び日高地方の沙流川筋に

限られている。アイヌ口承文芸の中で河童が語られている地域が狭かったのか、あるいは全道的な範囲で採録がされていなかった可能性がある<sup>(6)</sup>。

一覧表に記載した9編の物語を概観すると、①河童自

(5) カッパのアイヌ語呼称が「huntuchi」と記されていることから、千歳や沙流川筋以外の地域で採録されたものと推測するが、この呼称がどの地域のものなのかは不明である。

(6) 更科源蔵は「カッパを焼いた灰」の物語の補足事項として「カッパは他にミントチカムイ、ニントチカムイ、フントチカムイなどともいって全道に、これの棲んでいた伝説がある。ミントチもニントチもフントチも日本の水蛟(みづち)が語源だろうといわれ、カッパの形は道南から日高付近までは、日本のものに似ているが、頭に水の入っている皿がない。日本カッパとアイヌのお化けの混血形で、奥へ入るほどアイヌ固有のお化けになっている。」と記述しているが(更科 1981b : 77)、いつ、どこで、誰から記録した河童の呼称なのかは明らかにされていない。

身が主人公となる物語は存在しないこと、②物語に登場する河童は全て男性であることが判明した<sup>(7)</sup>。

神謡における河童は、人間の娘に恋をして婿入りし「獲物(魚)を司るもの」として人に恵みをもたらすが、人間を襲って内蔵を食べる習性を持っているために村を追放されるという善悪の二面性を持つ存在として語られている。そこでの河童は「カムイ(神)」や「トノ(親方)」という尊称を付けられる場合もあるが、人がカムイとして河童を祭るという神謡は一つもない。上田氏の語った「神謡の散文語り」を含む神謡の連番2、3、6、7、8は、妖怪が人間の娘を嫁に欲しくなって人間界(村)に来訪する「河童婿入り」タイプの異類婚譚がアイヌに伝播されたものである<sup>(8)</sup>。

### (3) 散文説話に登場する河童

河童の登場する散文説話5編は、神謡に較べて物語内容にバラエティーがある。神謡では全て、河童が人間の娘との異類婚を望んだ結果、人間から追放されるというテーマで語られるが、散文説話では連番1<sup>(9)</sup>以外は河童が積極的に人間を助けた代償にカムイとして人間から祭られようとする<sup>(10)</sup>ことが主要なテーマとなっている。

一般的に散文説話では、動物や植物などが人間にカムイとして祭られたいという希望は、祭ってもらいたい人間の「夢見」の中に人の姿で単独で現れ、その用件を一方的に述べるという意味伝達の方法が見られる<sup>(11)</sup>。動物や植物がその姿のままに人間と面談して直接、その依頼の言葉を会話の中で伝えるということはない。

散文説話に登場する河童は、カムイとして祭ってもらいたいという依頼の言葉を、祭ってもらいたい人間に伝える際は、その人間の息子や娘など(若者)に直接に面談して「伝言」を家主(父親)に託すという方法をとっている。

そのため、河童の登場する散文説話では、「夢見」というモチーフは表れない。その点は、河童がカムイの中で例外的な存在であることを示唆する。

河童の容姿については、散文説話の中ではあまり詳しく語られないのが普通である。人間に近い姿形をしているけれども、やはり人間との容姿の違いがあることは何

わせてはいる。例えば、連番9のテキストにおける河童と人間が遭遇する場面では日本語訳で次のように表現されている。

「(小屋に)入って料理しながらいるとそこに誰かが来て、正面を見ると河童の神様が入って片方の座に座って私に礼拝した。」

主人公の人間の若者は、小屋に入って来た存在を一見ただけで「河童の神様」と述べている。これはアイヌがイメージする河童の容姿が、訪問者に現れていたからであろうと思われる。一覧表に記入した散文説話では、登場する河童の容姿についての特徴はほとんど語られていないが、人間とは異なる容姿を持っていることが推測できる<sup>(12)</sup>。河童以外の動物や植物のカムイは、夢見の中では神の世界での人間のような姿で現れ、この世(人間の世界)では人間の姿に化けているときだけアイヌと直接に面談して会話する。ところが河童は河童の姿のままアイヌと意思の伝達が図れる能力を持っている。この点は、人間に近い容姿を持つキムンアイヌ(山男)などとも共通の特徴であるといえる<sup>(13)</sup>。

本テキストの類話は、更科源蔵と安藤美紀夫による共著の「河童の話」<sup>(14)</sup>に日本語で記された一編がある。内容の中で類似した筋書きは、「河童が村人を村長の家の一カ所に集めさせた。すると村人は河童の姿を見ると眠気をもよおして眠ってしまった。そこへやって来たトパットウミ(夜盗)の群を河童が皆殺しにしてしまった。河童は村長に対して、『私は、このコタンのほんのきの森を守るために、天から沙流川につかわされてきた河童<sup>カムイ</sup>神だが、今夜は、夜盗どもがこのコタンを襲って、みな殺しにするということを知って、みんなを助けてやろうと、ここに集めたのだ』と言いながら、村を守る魔除けの効果がある金の煙草入れを渡された」というものである。

この類話では、河童が人間に対して自分をカムイとして祭るよという依頼はしていないが、本編と同じく沙流川筋の伝承であることから、この類話が本編の語り手である上田トシさんによって、部分的なモチーフの変

(7) 連番2は物語の中で河童の「性」について記載は無いが、呼び名が「mintuchi tono(河童の親方)」と記されていることから男性と判断した。  
 (8) その一方で、河童が馬を川の中に引き入れようとして失敗する「河童駒引」タイプの伝説は、アイヌ口承文芸の中で語られてはいない。そもそも「馬」「牛」「羊」「山羊」が登場する物語がないことは、筆者が行ったアイヌ口承文芸の文献目録の作成において判明している。  
 (9) 連番1は散文説話のなかでも下位分類される「和人の散文説話」というものであり、和人と河童だけが登場し、アイヌは登場しないためにカムイとして祭るという行為を欠くと考えられる。  
 (10) 連番5の散文説話では、河童はモシリパウンサラに住む悪人の「戦の守護神」としてごく短く語られる。つまり、その悪人に祭られていたということである。  
 (11) 大谷(2014:124)。  
 (12) 「吉田巖遺稿資料(ア08Y3)」の和人の散文説話に河童が登場するテキストでも吉田の日本語訳に「或時又郵便をもらって行ったら橋の上に一匹の河童が居て一通の手紙をその児にくれた」とあり、主人公が一目で河童と判断している記述がある。  
 (13) これは筆者の仮説であるが、今後の研究テーマの一つとして更に検討を重ねたい。  
 (14) 更科・安藤(1977:202-204)。

移がされたという可能性がある。

河童の散文説話の伝承は数が少ないため、本テキストは「アイヌが伝承する妖怪」に関する研究上の貴重な資料であることから、採録させていただいた故・上田トシさんには感謝の気持ちでいっぱいである。

また、本稿の作成にあたって、モニターとなっていた方々から多くの改善点の指摘と指導を受けて修正することができました。

記して心から感謝申し上げます。

#### 〈アイヌ語テキストの凡例〉

##### (1) 本文の構成

二段組として、アイヌ語による語りはカタカナとローマ字の順で表記した。その下に日本語訳を記し、注記は各ページの下に記した。

##### (2) カタカナの表記

基本的に北海道ウタリ協会発行の『アコロ イタク』の表記の仕方と同じである。ただし音節末の r はそのときどきで、ラ、リ、ル、レ、ロ、に近い音が出たり、母音が付いたりする場合があるので、それが比較的が目立つ場合はその近い音を記した。また、言いさしや特に意味をなさない言いよどみは ( ) で括った。聞き取りや解釈の難しい単語の後に (?) を付した。

音素交替によって変化した音はそのとおりに記した例：「ポン セタ」→「ポイセタ」。

##### (3) ローマ字の表記

基本的に『アコロ イタク』と同じ方式で記した。日本語の場合は全て大文字で記した。音素交替を起こしたところは、単独で発した場合の形で記した。例：「poyseta」→「pon seta」。

よく聞き取れない音や意味の解釈が不確実な語句については、そのローマ字の語尾に「??」を付けた。

##### (4) あらすじと対訳の [ ] 内表記

日本語の意味として読解しにくい箇所は、註あるいは [ ] 内にことばを補った。

## 2 アイヌ語テキストと対訳

トカプチ エトコホ タ アオナ アン

Tokapci etokoho ta a=ona an

十勝の先の方に私の父がいた。

アウヌ アン ヒネ オカアン ペ ネ ヒネ

a=unu an hine oka=an pe ne hine

私の母がいて暮らして

ネ シネ イボネ ネ ヤ

ne sine ipone ne ya

一人息子で

アネ ヒネ オカアン ペ ワ

a=ne hine oka=an pe wa

私は暮らして

ネプ アエシリキラブ カ ソモキノ

nep a=esirkirap ka somo ki no

なにも苦勞もしないで

オカアン アオナハ エアキンネ

oka=an a=onaha earkinne

暮らしていた。私の父はととも

ヤイコアリキキクル ネ ヒネ

yaykoarikikikur ne hine

よく働く人なので

ネプ アエシリキラブ カ ソモキノ

nep a=esirkirap ka somo ki no

なにも苦勞をしないで

オカアン ペ ネ コロカ

oka=an pe ne korka

私たちは暮らしていたのですが

アオナ エネ ハウエアニ、(ネ、ン・・・)

a=ona ene hawean hi

父がこのように言いました。

タネ パクノ (オ) シリキラブサクアン ノ

tane pakno sirkirapsak=an no

「今まで何の心配もなく

オカアン ルウェ ネ ヤクン

oka=an ruwe ne yakun

暮らしていたら、

オラ パテク アエイコイトウパ

ora patek a=eykoytupa p

ただ、うらやむのは

コシマツ パテク アエイコイトウパ コロ

kosmat patek a=eykoytupa kor

嫁さんだけを欲しいと思って

アナン ルウェ (ネ) ネ ナ

an=an ruwe ne na

私はいるのだよ。

ネン カ エアラパ ワ (ア) マテトウン  
 nen ka e=arpa wa matetun  
 どこかへ、お前が行って妻をめとれ。」  
 セコロ パテク アオナ イイエコロ  
 sekor patek a=ona i=ye kor  
 とばかり私の父が言いながら  
 アナン ヒケ カ ヤイモニコロアン ワ (ネ…) )  
 an=an hike ka yaymonikor=an wa  
 いたけれども、私は忙しくして  
 ペネ クス ネン カ アラパアン カ  
 pe ne kusu nen ka arpa=an ka  
 いたのでどこへも行きも  
 ソモキノ アナン ペ ネ ア  
 somo ki no an=an pe ne a p  
 しないでいたのですが  
 アオナ エネ ハウエアニ  
 a=ona ene hawean hi  
 私の父がこう言いました。  
 トカプチ (エトウ) プトゥフ タ  
 Tokapci putuhu ta  
 「十勝の河口に  
 アトウイエコロ (トウイ、コロ) クル アン ワ  
 a=tuyekorkur??<sup>(15)</sup> an wa  
 私の親しい友人がいて  
 オロタ (ウ) ポン マッカチ アン ヒ  
 oro ta pon matkaci an hi  
 そこに小さな女の子がいたことを  
 アヌカラペ ネ アクス エウン (ン)  
 a=nukar pe ne akusu eun  
 私は見ていたのでそこへ  
 ヘネ アラパ ワ インカラ セコロ  
 hene arpa wa inkar sekor  
 でも行ってみなさい。」と  
 アオナハ ハウエアン エイタサ  
 a=onaha hawean eytasa  
 私の父が言いました。あまりにも  
 イイエ ルウェ ヒ クス シネアンタ  
 i=ye ruwe hi kusu sine an ta  
 私に言うので、ある日、  
 アラパアン クナク アラム ワ  
 arpa=an kunak a=ramu wa  
 私が行こうと思って

ヤイエトコイキアン ヒネ オラ (ア)  
 yayetokoyki=an hine ora  
 準備をして、そうしたら  
 シネ アンチカン レウシアン ワ  
 sine ancikar rewsu=an wa  
 「一晩、私が泊まって  
 シレパアン ペ ネ セコロ アオナハ  
 sirepa=an pe ne sekor a=onaha  
 着いたものだ。」と私の父が  
 イエパカシヌッ ネ クス  
 i=epakasnu p ne kusu  
 私に教えたので  
 レウシ クニ カ ヤイエトコイキ ヒネ  
 rewsu kuni ka yayetokoyki hine  
 泊まるべく準備をして  
 (エ) ペッペシ サナン アイネ (ネ)  
 petpes san=an ayne  
 川沿いを下がって行った結果  
 タネ ペッ ノシキ ネ クニ  
 tane pet noski ne kuni  
 今は川の中程であるように  
 アラム ウシケ タ シレパアン ヒネ  
 a=ramu uske ta sirepa=an hine  
 私が思う所に着いて  
 (エ) レウシアン クナク (ロ) コロ  
 rewsu=an kunak kor  
 私が泊まるつもりで  
 インカラナクス ポロ チクニ  
 inkar=an akusu poro cikuni  
 私が見ると大きな木が、  
 ホラク チクニ (イ) トシカ エココモ クニネ  
 horak cikuni toska ekokomo kunine  
 倒れた木が川岸に引っかかっているように  
 ホラク ワ ヒクス (テ) オロタ  
 horak wa hi kusu oro ta  
 倒れているので、そこで  
 ネ ヤクン ピリカ クナク アラム ヒ クス  
 ne yakun pirka kunak a=ramu hi kusu  
 だったら良いと私は思ったので  
 オラ ネ ニ チョロポク アケレケリ  
 ora ne ni corpok a=kerkeri  
 それから、その木の下を掃いて

(15) 上田氏は「友人」を意味するトクイエ tokuye をトゥイエtuye と発音することが他のウエベケレでもしばしばみられる。アイヌ語沙流方言で「アトクイエコロクル a=tokuyekorkur」と言おうとした可能性がある。

アチャシヌレ カ キ ヒネ オラ  
 a=casnure ka ki hine ora  
 きれいに掃除してから  
 (スケ、カ キ、ス) スケアン カ キ  
 suke=an ka ki  
 私が料理をし  
 ルスイ (イ) エトコ アオイキ カ  
 rusuy etoko a=oyki ka  
 たい、その準備も  
 キ ヒネ オラ ペトルン ラナン ヒネ  
 ki hine ora pet or un ran=an hine  
 してから、川に下りて  
 ペトッタ ヤイエヤントエトウンアン  
 pet or ta yayeyantoetun<sup>(16)</sup>=an  
 川で自分の宿を借りる  
 クニ アイェ カ キ  
 kuni a=ye ka ki  
 つもりでいることを述べて  
 イナウロシキアン カ キ ヒネ オラ  
 inawroski=an ka ki hine ora  
 木幣も立ててから  
 ペッペシ インカラナクス  
 petpes inkar=an akusu  
 川下の方を見ると  
 ネン カ エク コロ アン シリ  
 nen ka ek kor an siri  
 誰かが来る様子  
 ネ ペコロ エカリ アヌカラ  
 ne pekor ekari a=nukar  
 であるように向かい側を私が見た。  
 アオヤモクテ (エ・・・、コロ、なーんたけ)  
 a=oyamokte  
 私はへんだなと思った・・・。  
 (エネ) エネ (ウシ タ) アイヌ パヨカ  
 ene usi ta aynu payoka  
 このような所で人が歩く  
 ウシ カ ソモ ネプ セコロ  
 usi ka somo ne p sekor  
 ところでもないのであるがなと  
 ヤイヌアン コロ オラ ワッカタアン ヒネ  
 yaynu=an kor ora wakkata=an hine  
 私は思いながら水を汲んで

アフナン ヒネ スケアン コロ  
 ahun=an hine suke=an kor  
 [小屋に] 入って料理しながら  
 アナン ルウェ ネ アクス オロ タ  
 an=an ruwe ne akusu oro ta  
 いるとそこに  
 ネンカ エク ワ エカリ アヌカラ クス  
 nen ka ek wa ekari a=nukar kusu  
 誰かが来て、正面を見ると  
 ミントウチ カムイ アフン ヒネ  
 mintuci kamuy ahun hine  
 河童の神様が入って  
 イアラソケ タ ア ヒネ イコオンカミ  
 iarsoke ta a hine i=koonkami  
 片方の座に座って私に拝礼した。  
 アコオンカミ カ キ ヒネ オラ・・・  
 a=koonkami ka ki hine ora・・・  
 私も拝礼して  
 ガ、ガンガンガ<sup>(17)</sup>(?)、オラ スケアン  
 GA, GANGANGA??, ora suke=an  
 (?) それから料理が  
 オケレプ ネ クス アコイプニ アクス  
 okere p ne kusu a=koypuni akusu  
 終わっていたので客に食事をあげると  
 オンカミ ア オンカミ ア コロ  
 onkami a onkami a kor  
 彼が何度も礼拝すると  
 イペ カ キ ヒネ オラ スイ  
 ipe ka ki hine ora suy  
 食事をしてから再び  
 イタンキコシプ クニ アイェ アクス  
 itankikosip kuni a=ye akusu  
 お代わりするように私が言うと  
 イタンキコシプ カ キ ヒネ (エ)  
 itankikosip ka ki hine  
 お代わりをして  
 イペ ヒネ オラ ネ イタンキ  
 ipe hine ora ne itanki  
 食事をして、そのお碗を  
 アフライェ カ ソモキノ ナニ  
 a=huraye ka somo ki no nani  
 私は洗いもしないですぐに

(16) ヤイエヤントエトウン yayeyantoetun はアイヌ語辞典類には載っていないが、yay-e-yanto-etun (自身に・～について・宿・～を借りる) という一項動詞であると筆者が判断した。

(17) このように聞こえるが意味不詳。

ネ イタンキ アニ スイ ヤイカタ  
 ne itanki ani suy yaykata  
 そのお椀でまた自分は  
 シネ イタンキ タクパ アコロ ペ ネ クス  
 sine itanki takup a=kor pe ne kusu  
 一つのお椀だけを持っていたので  
 アニ イペアン カ キ オカアン ワ クス  
 ani ipe=an ka ki oka=an wa kusu  
 それで食事も終えたので  
 エアラキンネ ネ ミントウチ カムイ  
 earkinne ne mintuci kamuy  
 ほんとうにその河童の神様が  
 イコヤイライケ ヒ イェ カトウ ネ  
 i=koyayrayke hi ye katu ne  
 私に感謝しながら  
 イシトマ カ ソモキノ  
 i=sitoma ka somo ki no  
 「私を恐れもしないで  
 アコロ イタンキ (エ、エ・・・)  
 a=kor itanki  
 私の(使った)お椀を  
 (エ、エフ) エフライエ カ ソモ キ ノ  
 e=huraye ka somo ki no  
 あなたが洗いもしないで  
 ナニ エエイワンケ シリ ポ ヘネ  
 nani e=eywanke siri po hene  
 すぐにあなたが使った様子でいっそう  
 アエヤイコトウヤシ ルウェ ネ ワ  
 a=e=yaykotuyasi ruwe ne wa  
 私はあなたに心を許しましたよ。」  
 セコロ ハウエアン コロ  
 sekor hawean kor  
 と言いながら  
 エネ ハウエアニ (エ) ニシャッタネ  
 ene hawean hi nisattane  
 このように彼は言った。「明日になって  
 エアラパ トカプチ プトウフ タ エアラパ  
 e=arpa Tokapci putuhu ta e=arpa,  
 あなたが十勝の河口に行った、  
 コタン コン ニシパ (ア、オロ・・・)  
 kotan kor nispa  
 村の旦那さんの  
 オッタ (アア) サケ アン ワ  
 or ta, sake an wa  
 ところで宴会があつて

ニシャッタネ イク エトコ オイキパ コロ  
 nisattane iku etoko oykipa kor  
 明日になって宴会の準備をして  
 オカ ウシケ ウン エアラパ (ア)  
 oka uske un e=arpa  
 いるところにあなたが行く  
 ナンコロ クス、エアラパ ウシ  
 nankor kusu, e=arpa usi  
 だろうから、あなたが行ったところ、  
 ネ (ニ) コタン コロ ウタラ エラムオカ ヤクン  
 ne kotan kor utar eramuoka yakun  
 その村の人たちがわかたら  
 エアラキンネ エコヤイライケ ヒ (イエ)  
 earkinne e=koyayrayke hi  
 ほんとうにあなたに感謝の言葉を  
 イェ ロク イェ ロク パ コロ オカ ラポッケ  
 ye rok ye rok pa kor oka rapokke  
 何度も言っている間に  
 オラ サケ カ イクアン カ キ  
 ora sake ka iku=an ka ki  
 それから宴会も飲酒もし、  
 エトコオイキ ラポッケ オラ  
 etoko oyki rapokke ora  
 その用意をしている間に  
 クスル ワ トパットウミ カ エク、  
 Kusur wa topattumi ka ek,  
 釧路から夜盗が来る。  
 イクアン ヒ、(イ) トパットウミ ウウエトウナンカラ  
 iku=an hi, topattumi uwetunankar  
 酒を飲んでる時に夜盗に会う  
 クニネ シラン ルウェ ネ クス (オ)  
 kunine siran ruwe ne kusu  
 ことになっているので  
 ニシャッタネ エアラパ チキ オラ (ア)  
 nisattane e=arpa ciki ora  
 明日、あなたが行ったら  
 タブネ ネ ヒ イテキ エイエノ  
 tapne ne hi iteki e=ye no  
 このことを決してあなたは言わないで  
 コタン コロ ウタラ オピッタ ウウエカラパ  
 kotan kor utar opitta uwekarpa  
 村人がみんな集まり  
 オンネブ ネ ヤッカ ヘカッタラ ネ ヤッカ  
 onnep ne yakka hekattar ne yakka  
 老人でも子どもでも

ウウェカラパ クニネ エイエ ワ  
 uwekarpa kunine e=ye wa  
 集まるようにあなたが言って  
 オヤモクテ (ワ) ナンコロ コロカ  
 oyamokte nankor korka  
 不審がられるだろうけども  
 イテキ タプネ ネヒ エイエ ソモキノ  
 iteki tapne ne hi e=ye somo ki no  
 このことは言わないで  
 ヤク (ピリ、ノ、オオ、エ・・・)  
 yak  
 と  
 ネ ニシパ ウタラ トウラ イヨロツ、・・・  
 ne nispa utar tura iyorot ...  
 その旦那さんたちと一緒にいたら  
 ピリカ セコロ ネ ミントウチ カムイ  
 pirka sekor ne mintuci kamuy  
 いいのだ。」とその河童の神が  
 ハウエアン コロ イコヤイライケ ヒ  
 hawean kor i=koyayrayke hi  
 言うと、私に感謝し  
 アコヤイライケ ヒ カ アイユ ヒネ オラ  
 a=koyayrayke hi ka a=ye hine ora  
 私が感謝することも言って  
 スイ (イ) ニサツタネ (エ、ネ)  
 suy nisattane  
 「また、明日に  
 エレウシチセ オルン (ン)  
 e=rewsicise or un  
 あなたが泊まる家に  
 (アラパ) アラパアン クス ネ ナ  
 arpa=an kusu ne na  
 私が行くつもりだよ。  
 イテキ タプネ ネ ヒ エイエ  
 iteki tapne ne hi e=ye  
 このことをあなたは言わないで  
 ソモ キ ヤク ピリカ ナ セコロ  
 somo ki yak pirka na sekor  
 いたらよいぞ。」と  
 ハウエアン コロ ネ (エ) ミントウチ カムイ  
 hawean kor ne mintuci kamuy  
 言うとその河童の神が  
 イコオンカミ コロ ソイエネ ワ (ア)  
 i=koonkami kor soyene wa  
 私に拝礼すると外に出て

イサム オカ タ  
 isam oka ta  
 しまった後で  
 レウシアン ヒネ オラ ニサツタ  
 rewsian hine ora nisatta  
 私は泊まって明日の  
 クネイワ トウナシノ ホプニアン ヒネ オラ  
 kuneywa tunasno hopuni=an hine ora  
 朝早くに起きて  
 ペツペシ スイ<sup>(18)</sup> サナン ルウエ ネ アクス  
 petpes suy san=an ruwe ne akusu  
 川下に再び下がって行くと  
 ソンノ カ インネ コタン アン ヒネ  
 sonno ka inne kotan an hine  
 本当に大きな村があつて  
 ネ コタン (アン) ノシキ ウン  
 ne kotan noski un  
 その村の中央に  
 コタン コン ニシパ ネ クニ  
 kotan kon nispa ne kuni  
 村長〔の家〕であると  
 アラム ヒ クス オロ タ アラパアン ヒネ  
 a=ramu hi kusu oro ta arpa=an hine  
 思ったので、そこに行つて  
 シムシシカアン ルウエ ネ アクス (ウ、ア)  
 simusiska=an ruwe ne akusu  
 戸口で音を立てると  
 ピリカ (ア) ルパネマツ ソイエネ ヒネ  
 pirka rupnemat soyene hine  
 美しい婦人が外に出て  
 イアフンケ クスネ アフナン ルウエ ネ アクス  
 i=ahunke kusune ahun=an ruwe ne akusu  
 私を招いたので入つて行くと  
 ソンノ カ サケ エトコ オイキパ コロ  
 sonno ka sake etoko oyki pa kor  
 本当に宴会の準備をしながら  
 オカ ルウエ イシクレイエパレアン  
 oka ruwe isikreyepare=an  
 いたのを私が目を這わせて  
 ルウエ ネ アクス アヌカラ ヒネ オラノ  
 ruwe ne akusu a=nukar hine orano  
 いたところ、私が見て、それから  
 ネ (オ) オンネ ウタラ ペウレ ウタラ カ  
 ne onne utar pewre utar ka  
 その年寄りたちや若者も

(18) 発音は「ソイ」のように聞こえるが文脈から「スイ」と筆者が判断した。

オカ ヒネ イコオンカミバ  
 oka hine i=koonkami pa  
 いて、私に拝礼し  
 アコオンカミ カ キ ルウエ ネ ワ オラ  
 a=koonkami ka ki ruwe ne wa ora  
 私も拝礼をしてから  
 ヒナク ワ エククル アネ ルウエ ネ ヤ  
 hinak wa ek kur a=ne ruwe ne ya  
 「どこから来た人ですか？」  
 (イコ) イコウウエペケンヌパ ヒ クス  
 i=kouwepekennu pa hi kusu  
 と私に訊ねたので  
 タブネカネ トカプチ エトコ ワ (オ、ワ)  
 tapnekane Tokapci etoko wa  
 このように十勝の水源地から  
 ヤヤプカシテ (ヒ) アイヌ  
 yayapkaste aynu  
 歩いて来た人間が  
 アネ ルウエ ネ ヒ アイェ アクス  
 a=ne ruwe ne hi a=ye akusu  
 私であることを述べると  
 オラノ ネ ニシパ ウタラ  
 orano ne nispa utar  
 それからその旦那さんたちが  
 イコオンカミ ロク イコオンカミ ロク  
 i=koonkami rok i=koonkami rok  
 私に何度も拝礼した。  
 ピリカ ヒネ サケ アカラ ワ  
 pirka hine sake a=kar wa  
 「ちょうどよいことに私たちが酒を造って  
 タヌ克蘭ネ イク エトコアオイキ コロ  
 tanukuranne iku etoko a=oyki kor  
 今夜の宴会を準備して  
 アナン ラポッケ オッカイポ  
 an=an rapokke okkaypo  
 いたところに若者が  
 イコシネウエ セコロ ハウエオカバ コロ  
 i=kosinewe sekor haweokapa kor  
 遊びに来た。」と言いながら  
 イコヤイライケ イェ ロク イェ ロク パ  
 i=koyairayke ye rok ye rok pa  
 私に感謝の言葉を何度も述べ  
 コロ タン (?) ヒネ オラ (ア)  
 kor tan??<sup>(19)</sup> hine ora  
 て、それから

トカプ イベ カ (アエ) アイコプニ ワ  
 tokap ipe ka a=i=kopuni wa  
 昼飯も出されて  
 イペアン カ キ オカ アン ヒ クス (ウ)  
 ipe=an ka ki oka an hi kusu  
 食事も終えたので  
 タヌ克蘭ネ コタン コロ ウタラ  
 tanukuranne kotan kor utar  
 今晚、村人たちが  
 ヘカッタラ ネ ヤッカ (ア) オンネブ ウタラ  
 hekattar ne yakka onnep utar  
 子どもでも老人  
 ネ ヤッカ オカ ウタラ オピッタ  
 ne yakka oka utar opitta  
 でも、いる人たちみんな  
 フムネアニ ウン ウウエカラパ ワ オラ  
 humneani un uwekarpa wa ora  
 一カ所に集まってから  
 ネ (エ) チセ アナクネ (オハシ)  
 ne cise anakne  
 「その家は  
 オハシリ チセ ネノ (ネノ)  
 ohasir cise neno  
 留守の家のように  
 スネ カ ウシカ アペ カ ウシカ ワ  
 sune ka uska ape ka uska wa  
 明かりを消し、火も消して  
 (オ) オハシリ オハ チセ ネノ キ ワ  
 ohasir oha cise neno ki wa  
 留守の、からっぽの家のようにして  
 オカ ヤク ピリカ セコロ ハウエアナクス  
 oka yak parka sekor hawean akusu  
 いるとよい。」と言うと  
 オヤモクテパ ネ (エ) ニシパ ウタラ  
 oyamokte pa ne nispa utar  
 それをいぶかる旦那さんたちが  
 オヤモクテパ ルウエ ネ ノイネ オカ  
 oyamokte pa ruwe ne noyne oka  
 不思議であるかのようにいた  
 コロカ モシマノ アナン ルウエ ネ  
 korka mosmano an=an ruwe ne  
 けれども、私はだまっていた。  
 ネ オラ ネ (エ) オカ ウタラ  
 ne ora ne oka utar  
 それからその人たち

(19) 言いさしかも知れないが不詳。

オピッタ ウェカラパ (ア) カ キ  
 opitta uwekarpa ka ki  
 みんなを集めて  
 ラポッケ オラ (イ) イクアン ヒネ  
 rapokke ora iku=an hine  
 いる間に私は飲酒して  
 イク ヒネ オカ ウタラ トウラノ  
 iku hine oka utar turano  
 飲んでいた人たちと一緒に  
 (イク、イ) イク イヨロツァン コロ  
 iku iyorot=an kor  
 仲間入りして  
 アナン アクス オラ ナニ  
 an=an akusu ora nani  
 いるとすぐに  
 オカ ウタラ ナ イク…、ホントム パクノ  
 oka utar na iku…, hontomu pakno  
 いる人たちがまだ酒宴の中ほど  
 タクブ ネ アクス オラノ  
 takup ne akusu orano  
 ばかり経つとそれから  
 アエスイパ ワ オラノ もう  
 a=esuypa wa orano MOU  
 眠らされて、それからもう  
 ロク ワ オカ カ ソモキノ  
 rok wa oka ka somo ki no  
 座っていることも出来ないで  
 オカ ウタラ オピッタ ヤイホクシテ ワ  
 oka utar opitta yayhokuste wa  
 いる人たちみんなが転がって  
 モコロ ワ オカ ラポッケ スネ カ  
 mokor wa oka rapokke sune ka  
 眠っている間に明かりも  
 アウシカ アペ カ アウシカ ヒネ  
 a=uska ape ka a=uska hine  
 私が消して、火も消して  
 シットイエヤイエクロク<sup>(20)</sup> (ウシ) ウシケ タ  
 sirtoyareekurok?? uske ta  
 真っ暗になった(?)所に  
 アナン ルウェ ネ アクス オカ ウタラ  
 an=an ruwe ne akusu oka utar  
 いると、いた人たちが  
 オピッタ ウコエトロトルパ コロ  
 opitta ukoetoroturpa kor  
 みんなでいびきをかいて

オカ ラポッケ アパフム アシ インカラアン  
 oka rapokke apahum as inkar=an  
 いる間に戸の音がした。見ると  
 スイ ネ ミントウチ カムイ  
 suy ne mintuci kamuy  
 また、あの河童の神が  
 アフン ヒネ ネ ヒ クス  
 ahun hine ne hi kusu  
 入って来たので  
 アコオンカミ コロ オラ (アア…)  
 a=koonkami kor ora  
 私は拝礼しながら  
 トウキ シクテノ サケ アコレ アクス  
 tuki sikteno sake a=kore akusu  
 お椀いっぱい酒をあげると  
 アコオンカミ ア オンカミ ア コロ (オ)  
 a=koonkami a onkami a kor  
 拝礼を繰り返しながら  
 イク (トウ) トウパ カ (ア)  
 iku tu pa ka  
 二杯も  
 イク ワ オラ ヤイソイエネ カ  
 iku wa ora yaysoyene ka  
 彼は酒を飲んでから、自分は外にも  
 ソモキノ アン ラポッケ  
 somo ki no an rapokke  
 しないでいたところ  
 ネ トパットウミ ウタラ アラキパ ワ  
 ne topattumi utar arki pa wa  
 あの夜盗の群が来て  
 ネ ノイネ チセ (ン) オカリ (ネチ)  
 ne noyne cise okari  
 いるらしく家の周りで  
 ネブ カ (アク、アブカ) ヤヤブカシテパ  
 nep ka yayapkaste pa  
 何か歩いている  
 フム アシ コロ オカ (ラ) ラポッケ  
 hum as kor oka rapokke  
 音がしていたところ  
 ウコピヌピヌパ マク ネ ヒネ  
 ukopinupinu pa mak ne hine  
 お互いにひそひそ声がする。「どうして  
 (オ) オハ コタン アン (ア、ソ…)  
 oha kotan an  
 空っぽの村であるのか。

(20) このように聞こえるが、文脈から判断すると「シットヤレクロク sirtoyarekurok (真っ暗である)」と言おうとした可能性がある。

スネ カ イサム スプヤ カ  
sune ka isam supuya ka  
灯りもない。煙も  
アペ カ ネブ カ イサム  
ape ka nep ka isam  
火もなにもない。  
マク ネ ヒネ オハコタン ネ  
mak ne hine oha kotan ne  
どうして空っぽの村になって  
ルウェアン セコロ ハウエオカパ コロ  
ruwe an sekor haweoka pa kor  
いるのか。」と言うと  
ウコピヤカカ (?) <sup>(21)</sup> パ コロ (ウ)  
ukopiyakaka?? pa kor  
一緒にささやきながら (?)  
チセ オカリ パヨカ フム アシ コロ  
cise okari payoka hum as kor  
家の周りを歩き回る音を立てながら  
アン ラポッケ オラ  
an rapokke ora  
いたところ  
ネア ミントウチカムイ ソイエネ アクス  
nea mintuci kamuy soyene akusu  
その河童の神が外に出ると  
オラノ エソイネ  
orano esoyne  
それから外で  
アエラミシカリ ウタラ ハウエ、ハウエ  
a=eramiskari utar hawe, hawe  
私の知らない人たちの声が  
アキル ノ ウコバラバラク ネ ヤ  
a=kiru no ukoparaparak ne ya  
ひっくり返されるように泣き叫ぶとか  
キ ハウエ アヌ コロ アナン アイネ (エ)  
ki hawe a=nu kor an=an ayne  
する声を私が聞いていた結果、  
(ト) オラ スイ ネア ミントウチ カムイ  
ora suy nea mintuci kamuy  
それからまたあの河童の神が  
アフン (カ) ヒネ オラ オカ ウタラ  
ahun hine ora oka utar  
入って来て、「いた人々の

オピッタ シネン カ アキラレ カ  
opitta sinen ka a=kirare ka  
全て一人も逃させも  
ソモキノ (ハ、アノ) オピッタ  
somo ki no opitta  
しないでみんな  
アライケ ルウェ ネナ  
a=rayke ruwe ne na  
殺してしまったぞ。  
イキヤ (ア) ミントウチ エク ワ  
ikiya mintuci ek wa  
絶対に河童が来て  
(ア) トパットウミ エアラキ ウタラ  
topattumi earki utar  
夜盗をしに来た人たちを  
ライケ ルウェ ネ セコロ  
rayke ruwe ne sekor  
殺したことでであると  
イテキ エハウエアン ヤク ピリカ  
iteki e=hawean yak pirka  
あなたが言わなくてよい。  
ヤイカタ プイネ (エ) トパットウミ ウタラ  
yaykata puyne tupattumi utar  
自分一人で夜盗の群を  
(ア) オピッタ アライケ ルウェネ セコロ  
opitta a=rayke ruwe ne sekor  
全て殺したのでであると  
エハウエアン ワ (ワ ソモ・・・)  
e=hawean wa  
あなたが言って  
(ア) ヤイコエシナ ヤク ピリカ セコロ  
yaykoesina<sup>(22)</sup> yak pirka sekor  
内緒にしたらよい。」と  
ハウエアン ヒ オラ アコオンカミ カ  
hawean hi ora a=koonkami ka  
言ってから、私が拝礼を  
キ コロ オラ スイ サケ  
ki kor ora suy sake  
して再び酒を  
アコレ アクス イク カ キ ヒネ オラ  
a=kore akusu iku ka ki hine ora  
あげたので彼が酒を飲んでから

(21) 久保寺 (1994) に、「Piyap kamui 音もなく忍んでやってく神」とあり「piyap」と関係あるかも知れない。あるいは同書記載の「hakak さゝやく、囁、小声」や「hak さゝやく、さゝやき <擬声 hak-hak (反復形)」が語根となっている可能性もあるが不詳。

(22) バチラー (1938) に「Yaikoeshina ヤイコエシナ、内證ニスル」と記載あり。

ソイエネ オラ スイ エホシピ (ウ) タネ  
 soyene ora suy e=hosipi tane??  
 外に出て「また、あなたが帰る途中で<sup>(23)</sup>  
 (アウタ…) スイ ウウエトウナンカラアン  
 suy uwetunankar=an  
 また、私は会う  
 クス ネ ナ セコロ ハウエアン コロ  
 kusu ne na sekor hawean kor  
 つもりだぞ。」と言って  
 ネア (エ) ミントウチ カムイ ソイエネ (ネ…)   
 nea mintuci kamuy soyene  
 その河童の神が外に出て  
 オラノ (オソ) オンカミアナ アナ コロ  
 orano onkami=an a an a kor  
 それから私は拝礼し続けながら  
 アナン ヒネ オラ ニシャツタネ  
 an=an hine ora nisattane  
 いて、それから朝になって  
 シリペケレ アクス  
 sirpeker akusu  
 夜が明けると  
 ネ チセ コロ オックアイポ ウタラ  
 ne cise kor okkaypo utar  
 その家の若者たちが  
 (ソ) ソイエンパ アクス ソイタ  
 soyenpa akusu soy ta  
 屋外に出ると外に  
 アエラミシカリ アイヌ ウタラ  
 a=eramiskari aynu utar  
 知らない人たちが  
 (ヌ…) ライ ワ オカ アクス オラノ  
 ray wa oka a kusu orano  
 死んでいたの、それから  
 ウコキマテッパ イヨクヌレ パ ワ…  
 ukokimatek pa iyokunnure pa wa…  
 驚き、びっくりして…  
 ヒ クス タブネ カネ クスル ワ  
 hi kusu tapne kane Kusur wa  
 そして、このように釧路から  
 トパットウミ エク (ワ) ヒ  
 topattumi ek hi  
 夜盗が来たことを

アエラマン ヒ クス (ウ) オカ ウタラ  
 a=eraman hi kusu oka utar  
 私が知っていたので、いた人たちが  
 オピッタ フムネアニ ウン ウウエカラパ クニ  
 opitta humneani un uwekarpa kuni  
 みんな一カ所に集まるように  
 アイェ ワ オピッタ (ヤイ) ヤイカタ  
 a=ye wa opitta yaykata  
 私が言って、すべて自分が  
 プイネ アライケ ルウエ ネ ヒ  
 puyne a=rayke ruwe ne hi  
 一人で殺したのであることを  
 アイェ アクス オラノ コタン コロ ウタラ  
 a=ye akusu orano kotan kor utar  
 私が言ったので村人たちが  
 イヨクヌレ ロク イヨクヌレ  
 iyokunnure rok iyokunnure  
 とても驚いた。  
 アイヌ ヘ カムイ ヘ  
 aynu he kamuy he  
 「人間なのか、神様なのか、  
 ネ ヒネ エネ アン…  
 ne hine ene an…  
 このようになって…  
 アイヌ ウタラ オピッタ アライケ  
 aynu utar opitta a=rayke  
 人間たちがみんな殺された。」<sup>(24)</sup>  
 セコロ ハウエオカ コロ イコヤイライケ  
 sekor haweoka kor i=koyayrayke  
 と言いながら私に感謝の言葉を  
 イェ ロク イェ ロク パ コロ オラ  
 ye rok ye rok pa kor ora  
 何度も述べながら  
 ナニ ネ (エア) ライ アイヌ ウタラ  
 nani ne ray aynu utar  
 すぐに、死んだ人たちを  
 フムネ (オルン) アニ ウン  
 humneani un  
 一カ所に  
 ルラパ ワ アチャシヌレパ カ  
 rura pa wa a=casnure pa ka  
 運んで掃き掃除も

(23) 上田氏による日本語による語りから筆者が類推して訳した。

(24) 上田氏による日本語の語りでは、「(この若者が) 来なかったら自分らもみんな死ぬんだっの、殺されるのに、来たおかげで、自分ら助けてもらった」と述べている。

キ ラポク タ ネ (エウ) ト ノシキ (イ)

ki rapok ta ne to noski

している間に、真昼

ラポク パクノ (オ) ネ ライ アイヌ ウタラ (ウ)

rapok pakno ne ray aynu utar

の間までに、死んだ人たちを

フムネアニ ウン オスルパ カ キ ヒ オラ

humneani un osurpa ka ki hi ora

一カ所に捨ててから

エアシリ ネ サケ (エ、イ、イ、アイ)

easir ne sake

はじめてその酒を、

イクアン ヒ アホピタレ カ

iku=an hi a=hopitare ka

私たちが酒宴を終わらせも

キ ルウェ ネ ワ オラノ

ki ruwe ne wa orano

してから

(イエ) オカ ウタラ

oka utar

いた人たちが

イヨクヌレ ロク<sup>(25)</sup> イヨクヌレ ロク コロ

iyokunnure rok iyokunnure rok kor

驚いて驚いて

オラ ウサ オカイペ

ora usa okaype

それから、いろいろなものを、

オカ ウタラ ヤイライケ アタイ ネ ヤク

oka utar yairayke atay ne yak

いる人たちが「感謝の値である。」と

イエバ コロ ウサ オカイペ

ye pa kor usa okaype

言って、いろいろなものを

イサム ウン ルラ パ コロカ (ア)

i=sam un rura pa korka

私のそばに運んだけれども

ネヅカ アコン ルスイ カ ソモ キ (イ、キ)

nep ka a=kor rusuy ka somo ki

「何も私は欲しくはありません。

イコン ネヤ ネヅ ネ ヤック

ikor ne ya nep ne yakka

宝物であるとか何であつても

ヤイカタ アナクネ ポロンノ

yaykata anakne poronno

自分はたくさん

アコロ ペネ クス ネヅ カ (アコ)

a=kor pe ne kusu nep ka

持っているのも何も

アコン ルスイ カ ソモ キ

a=kor rusuy ka somo ki

欲しくはないのです。

シネヅ カ ネヅ カ (アコ) アコン ルスイ カ

sinep ka nep ka a=kor rusuy ka

一つも何も欲しいとも

ソモ キ コロカ パテク ヤカイエ

somo ki korka patek yak a=y

思わないけれどもただ

コタン コロ ニシパ イコラモシキ ワ

kotan kor nispa ikoramoski wa

村長に申し訳なくて、

イコレ カ キ カ (アウ)

i=kore ka ki ka

私にくれようとするか

ソモ キ ナンコロ コロカ

somo ki nankor korka

しないだろうけれども

ネ イマツネポホ タクヅ

ne imatnepoho takup

その娘さんだけを

アコンルスイ ネ セコロ

a=kor rusuy ne sektor

私は欲しいのです。」と

ハウエアナン ルウェ ネ アクス (ア)

hawean=an ruwe ne akusu

私が言うと

ポ ヘネ ピリカ ハウエネ セコロ

po hene pirka hawene sektor

「それは、なおさらいい。」と

ハウエウシタル (?) コタン コロ ウタラ

haweustar??<sup>(26)</sup> kotan kor utar

(?) 村人たちが

ハウエオカパ コロ エウコヤイコブンテックパ

haweoka pa kor eukoyaykopuntek pa

言いながら皆で喜び

(25) レル reru と聞こえるが、文脈からロク rok の言い損ないと判断して記した。

(26) 不詳。

コロ オラノ (タ、トゥ)  
 kor orano  
 ながら、  
 トウッコ レレコ アナン ラポッケ オラ  
 tutko rerko an=an rapokke ora  
 二三日、私がいたところ  
 ネ ポン メノコ イトゥラ ワ  
 ne pon menoko i=tura wa  
 その娘が私に連れて  
 ホシピ (ホシ・・・、ア) クニ ネ クス  
 hosipi kuni ne kusu  
 帰るつもりであったので  
 シケカラ ワ オラ イトゥラ ヒネ  
 sikekar wa ora i=tura hine  
 荷物を作って私に連れて  
 ホシッパアン ヒネ アラキアン ヒネ  
 hosippa=an hine arki=an hine  
 帰って来て  
 ネア レウシ チセ、チセヘ (セ)  
 nea rewsu cise, cisehe  
 あの泊まり小屋に、  
 ホラク チクニ オッタ アラキアン ヒネ  
 horak cikuni or ta arki=an hine  
 倒木のところに来て  
 ネ ポン メノコ (ト) アトゥラ カネ ワ  
 ne pon menoko a=tura kane wa  
 その娘を連れて  
 エクアン ヒネ オラ スケアン カ  
 ek=an hine ora suke=an ka  
 来て、料理を  
 キ ワ イペアン カ キ アクス オラノ  
 ki wa ipe=an ka ki akusu orano  
 して食事をする、それから  
 スイ ネア ポン メノコ  
 suy nea pon menoko  
 また、その娘が  
 アイスイエ モコンルスイ ヤク イエ コロ  
 aysuye mokor rusuy yak ye kor  
 「私は眠りたい。」と言いながら  
 アイスイエ コラン ヒ クス (ウ)  
 aysuye kor an hi kusu  
 居眠りしながらいたので<sup>(27)</sup>

シンキ ワ ネ ナンコロ クス  
 sinki wa ne nankor kusu  
 「疲れているからだろうから  
 ホッケ ヤク ピリカ ピリカ セコロ  
 hotke yak pirka pirka sekoro  
 横になるとよい。」と  
 アイエ アクス ホッケ アクス ナニ  
 a=ye akusu hotke akusu nani  
 私が言うと横になってすぐに  
 モコロ ワ エトロ コロ アン ラポッケ  
 mokoro wa etoro kor an rapokke  
 眠っていびきをしたところ  
 スイ ネア ミントウチ カムイ  
 suy nea mintuci kamuy  
 また、あの河童の神が  
 アフン カネ イキ ヒネ オラノ  
 ahun kane iki hine orano  
 入って来て、それから  
 スイ アコヤイライケ ヒ アイエ  
 suy a=koyairayke hi a=ye  
 また私が感謝の言葉を言った。  
 アコイプニ カ キ ワ オラノ  
 a=koypuni ka ki wa orano  
 料理をよそって、それから  
 エアラキンネ イコヤイライケ  
 earkinne i=koyairayke  
 本当に私に感謝し、  
 アコヤイライケ ヒ アイエ コロ  
 a=koyairayke hi a=ye kor  
 私が感謝することを言うと  
 イペ ア イペ ア カ キ ヒネ オラ  
 ipe a ipe a ka ki hine ora  
 たくさん食事してから  
 エネ ハウエアニ、(エウ・・・)  
 ene hawean hi  
 このように彼が言った。  
 エウニ タ エホシピ ヤッカ  
 e=uni ta e=hosipi yakka  
 「あなたの家にあなたが帰っても  
 ナ ミントウチ カムイ (イ)  
 na mintuci kamuy  
 まだ河童の神

(27) 河童が登場する場面では、トバットゥミの群を全滅させた時と同じく、主人公以外の人間は眠らされてしまい、主人公だけが河童と二人だけで面談する。

アエトウナンカラ セコロ アンペ アナクネ  
 a=etunankar sekor an pe anakne  
 に出会ったということは  
 イテキ エイエ ヤク ピリカ エオナハ  
 iteki e=ye yak pirka e=onaha  
 言わなくていいぞ。あなたの父  
 エウン パテク エイエ ワ  
 eun patek e=ye wa  
 にだけあなたが言って  
 エオナハ オロワノ (オ) リクン カント ウン  
 e=onaha orowano rikun kanto un  
 あなたの父から天の世界に  
 ミントウチ カムイ アノミ ナ セコロ  
 mintuci kamuy a=nomi na sekor  
 河童の神に祈るのだぞ。」と  
 エチハウエオカ コロ イノミ ワ  
 eci=haweoka kor i=nomi wa  
 「あなたたちが言って私に祈って  
 イコレ ヤクネ (エ) パテク  
 i=kore yakne patek  
 くれて、ただ  
 アエイコイトウパア イナウ ネ ヤ  
 a=eykoytupa p inaw ne ya  
 私が欲しいものは木幣とか、  
 ニツネ イナウ ニツネ シラリ ネ クス  
 nitne inaw nitne sirari ne kusu  
 硬い木幣と硬い酒粕なので  
 ネ ワ アンペ アニ (イ) イコヤヤッタサ  
 ne wa an pe ani i=koyayattasa  
 そういったもので私にお返し  
 ヤッカ ピリカ セコロ ハウエアン ワ オラノ  
 yakka pirka sekor hawean wa orano  
 してもよい。」と言って、それから  
 アコオンカミ ア オンカミアナ ヒネ オラ  
 a=koonkami a onkami=an a hine ora  
 私は拝礼を何度もして  
 ヤイ、ソイエネ…、タン ツケタ (?)  
 yay, soyene…, tan tuketa??<sup>(28)</sup>  
 外に出て「この (?)  
 (ウエタン) ウウエトウナンカラアン ヤク  
 uwetunankar=an yak  
 私たちが出会えば

オラ アナクネ (エ、エ…)  
 ora anakne  
 それからは  
 タン エエパク (テ) アナクネ ウヌカラン カ  
 tan eepak anakne unukar=an ka  
 この次は会いも  
 ソモキ (ナンコロ) ナンコロ ナ セコロ  
 somo ki nankor na sekor  
 しないでらうよ。」と  
 ハウエアン コロ カムイ オロワ (ア)  
 hawean kor kamuy oro wa  
 言うと神様から  
 アエ (セ、シ) セルマクウシ クス  
 a=e=sermakus kusu  
 「私はあなたの守護神になるので  
 ピリカ オッカヨ ネ アン ヤク  
 pirka okkayo ne an yak  
 良い男になっていけば  
 ピリカ ナ セコロ イエ コロ ソイネ ワ  
 pirka na sekor ye kor soyne wa  
 よいぞ。」と言って外に出て  
 オラノ アコオッシノ (?) カネ アナン ワ  
 orano a=koossno??<sup>(29)</sup> kane an=an wa  
 それから私が (?) しながらいて  
 オンカミアナ アナ コロ アナナイネ オラ  
 onkami=an a an a kor an=an ayne ora  
 何度も拝礼していたあげく  
 レウシアン ヒネ オラ  
 rewsian=an hine ora  
 一晩泊まっていた  
 ニサッタ クネイワ アン アクス  
 nisatta kuneywa an akusu  
 明日の朝になると  
 ネア ポン メノコ ホプニ ヒネ  
 nea pon menoko hopuni hine  
 その娘が起きて  
 エアラキンネ イコオリパク コロカ  
 earkinne i=kooripak korka  
 本当に私にかしこまっていたけれども  
 マクアニ イコ (オ) オリパク シリ アン  
 mak an hi i=kooripak siri an  
 「どうして私に遠慮するのか。」

(28) 不詳。

(29) 田村すず子 (1996) に記載された名詞「オッシ ossi」の意味は「①…の中。②…の腹の中。③物を考える腹の中、心の中。」であり、これが語幹の可能性があるが不詳。

セコロ アイェ コロ イペアン カ  
 sekor a=ye kor ipe=an ka  
 と私が言うと、私は食事も  
 キ ヒネ オラ ナニ ホシッパアン ヒネ  
 ki hine ora nani hosippa=an hine  
 してからすぐに帰って  
 アラキアン ヒネ アウニ タ  
 arki=an hine a=uni ta  
 来て、自分の家に  
 シレパアン ヒネ ホスキ アフナン ワ オラ  
 sirepa=an hine hoski ahun=an wa ora  
 着いて先に入って  
 イヨヌイタサ アウヌ ソイエネ ヒネ  
 iyonuytasa a=unu soyene hine  
 今度は反対に私の母が外に出て  
 ネ アトゥラ ポンメノコ トウラ ワ  
 ne a=tura pon menoko tura wa  
 私が連れて来た娘を連れて  
 アフン ワ オラノ (オトノト…)  
 ahun wa orano otonoto??<sup>(30)</sup>  
 入って、それから (?)  
 アオナハ カ イコプンテク ア イコプンテク ア  
 a=onaha ka i=kopuntek a i=kopuntek a  
 私の父がとても私をねぎらった。  
 メノコ トウラアン ワ イペアン ヒ  
 menoko tura=an wa ipe=an hi  
 女を私が連れて食事をしたことを  
 アオナ エヤイコプンテク ワ  
 a=ona eyaykopuntek wa  
 私の父が喜んで  
 イコプンテク ア イコプンテク ア カ  
 i=kopuntek a i=kopuntek a ka  
 私を誉めに誉めて  
 アウヌフ カ アトゥラ メノコ カ (ア)  
 a=unuhu ka a=tura menoko ka  
 私の母にも連れて来た女にも  
 ソモ ヌ クニネ アオナハ エウン  
 somo nu kunine a=onaha eun  
 聞こえないように、私の父へ  
 タプネ タプネ ネ ワ  
 tapne tapne ne wa  
 かくかくしかじかと  
 ミントウチ カムイ (イ)  
 mintuci kamuy  
 河童の神が

イカオピウキ クステライポ (オク、ノ)  
 i=kaopiwki kusukeraypo  
 私を助けてくれたおかげで  
 トカプチ タ トパットウミ  
 Tokapci ta topattumi  
 十勝で夜盗が  
 アラキ ワ コロカ オピッタ アライケ ワ  
 arki wa korka opitta a=rayke wa  
 来たけれども全部殺されて  
 トカプチ プトゥフ ウン ニシパ ウタラ  
 Tokapci putuhu un nispa utar  
 十勝の河口の旦那さんたちが  
 イコヤイライケ ヒ イェ ロク  
 i=koyairayke hi ye rok  
 私に感謝を何度も  
 イェ ロク パ ヒネ (エ) エクアン ヒ  
 ye rok pa hine ek=an hi  
 述べて、私は帰って来たことを  
 アオナ エウン アイェ アクス オラノ  
 a=ona eun a=ye akusu orano  
 私の父へ言うと、それから  
 アオナ イコプンテク ア イコプンテク ア コロ  
 a=ona i=kopuntek a i=kopuntek a kor  
 父がとても私をねぎらって  
 オラ ナニ サケカラ エトコ オイキ ヒネ  
 ona nani sakekar etoko oyki hine  
 すぐに酒造りの準備をして  
 ピリカ トウッコ レレコ ネ ワ  
 pirka tutko rerko ne wa  
 よく、二三日経って  
 サケ ピリカ ヒ オラ ネ サケ アニ  
 sake pirka hi ora ne sake ani  
 酒がおいしくなって、その酒で  
 ピリカ イナウ ピリカ シラリ アニ  
 pirka inaw parka sirari ani  
 「美しい木幣とおいしい酒粕で  
 リクンカント ウン ネ ミントウチ カムイ  
 rikun kanto un ne mintuci kamuy  
 天の世界にいる河童の神を  
 アノミ ナ セコロ アオナハ ハウエアン コロ (オ)  
 a=nomi na sekor a=onaha hawean kor  
 私は祭りますよ。」と父が言って  
 カムイノミ ネ ヤ (ベツ)  
 kamuynomi ne ya  
 神への祈りをした。

(30) 不詳。

ペツ オルン ペツ コロ カムイ イリワク ネ

pet or un pet kor kamuy irwak ne

川にいる川の神の兄弟である

(ペ) ミントウチ カムイ ネ クス (ウ)

mintuci kamuy ne kusu

河童の神なので

ワッカ ウシ カムイ ネ ヤッカ

wakka us kamuy ne yakka

水の神であっても

ミントウチ カムイ ネ ヤッカ

mintuci kamuy ne yakka

河童の神であっても

ウエコホピ アオナ ヤイライケ ヒ

uekohopi a=ona yairayke hi

どちらにも私の父が感謝することを

イエ ロク イエ ロク パ イエ コロ

ye rok ye rok pa ye kor

重ねて言いながら

オカアン アイネ タネ (エ)

oka=an ayne tane

暮らしていたあげく今は

ネヅカ アエシルキラッ カ ソモキノ

nep ka a=esirkirap ka somo ki no

何も心配もしないで

オカアン ラポッケ (ア、ネ・・・) オラ

oka=an rapokke ora

暮らしていながら

ネ トカプチ プトゥフ ウン ウタラ

ne Tokapci putuhu un utar

その十勝の河口の人たちが

イコシネウエ ヤイカタ カ アコシネウエ

i=kosinewe yaykata ka a=kosinewe

遊びに来るし自分も遊びに行った。

ウコパヨカアン コロ オカアン ラポッケ

ukopayoka=an kor oka=an rapokke

互いに行き来しながら暮らしていたところ

アオナハ カ ネ トカプチ プトゥフ

a=onaha ka ne Tokapci putuhu

私の父もその十勝の河口

ウン ニシパ ウタラ カ オンネウタラ (ア)

un nispa utar ka onne utar

の旦那さんたちも老人たちは

オンネ ワ イサム オカ タ (ア)

onne wa isam oka ta

亡くなってしまった後で

ポ カ ポロンノ アカラ ワ

po ka poronno a=kar wa

子供をたくさんつくって

ピリカ ウレシパ アキ ワ

pirka urespa a=ki wa

良い暮らしをして

オンネアン (ペ) ワ アオナ

onne=an wa a=ona

私が老いて、私の父が

イコプンテク ア イコプンテク ア コロ

i=kopuntek a i=kopuntek a kor

私にとっても喜びながら

アオナハ カ オンネ ワ、 ペ ネ アクス

a=onaha ka onne wa, pe ne akusu

私の父も亡くなったのであると

アイエ セコロ シネ アイヌ

a=ye sekor sine aynu

言ったと一人の男が

イソイタク セコン ネ。

isoytak sekor ne.

話したのだと。

パクノ。

pakno.

ここまで。

### 3 日本語テキスト

(上田) 十勝川のカツチ<sup>(31)</sup>に、暮らして、母親、父親、母親で暮らしていたけど、は、父親でも働き者でなんも苦勞もしないで暮らして、いるうちに、自分もやがて、もう大人になって、なつてからもお互いに働くから、なんの苦勞もしないでいるけども、父親、言うのには、あ、「これだけ、え、ものがなんでもあつて、そして、もの不自由ないで、暮らすぐらいの、に、

自分らなつて、いるけども、それしか欲しいものは、嫁欲しいだけで、嫁の煮炊きしたものが、食べたいというだけしか自分、考えていないから、どっかさ行つて女見つけてくれ。」つて、父親に言われても、

忙しかったりなんかして歩きもしないでいるうちに、あまり、こんど、父親言うの、「十勝のテト<sup>(32)</sup>に昔、いー、行き来した友達のとこに、女の子一人いたの見たことあるから、もう、おー、大人になったべと思うから、そこでも行つてみれ。」つて、えー、

父親言うから、こんど、で、でも、忙しいながらも、う、出かけて行くー、泊まって出かけて、

支度して出て行つてー、その、もう十勝川の途中かなと思う頃、さ、行つてから、「一晩泊まって、で、

でないば着けない。」ちゅうの聞いていたから、あー、泊まる、泊まってみたけ、ひっくり返つた大きな、あ、木、根むくれの木、倒れている。その下に泊まつたら、

泊まつてもいいよなとこあつたから、ここならいいと思つて、片付けて、え、きれいに片付けたりしてから、こんどー、川、川さ降りて、えー、川に、今晚、ここで一晩、あ、泊めてもらうからということ、水の神さんさお願いしたり、りーなんかして、そこに御幣、ねー、立てたり、ものー、食べ物散らかしたりなんかしてから、川の下さ見たけ、誰かー、来てるように見える、

ヒンタ hinta (何で)、こんなとこに、人なんか来ると思わないとこに、誰来てるべなと思つたけど、見て見ない振りして、家さ入つて、う…、家だか、その根むくれの下に、火焚いてー…、食べる支度して、して、いたけ、そこさ、来て見たけー、え、ミントゥチ mintuci たら河童。

あ、河童が入つて来て、え…、自分座つてる、自分の向かいに座つて自分さ、あー、手合わして拝んで、あれするから自分も、お互いに挨拶し合ひして、え、してるうちに、その煮た、煮たーもの、煮えたから、あー、お椀も一つしか持つて来てないから、そのー、ついでやつたけ、もう、すごい喜んで、食べてー、で、「まだ、

おかわり食べれ。」つたけ、まだ、おかわり、伸ばしたから、まだ、それをついでやつたけ、喜んで、食べてくれて、からこんど、そのーお椀、使つたお椀を自分、

洗いもしないで、すぐその、お椀で自分、まだ食べてしまつたりなんかしたけ、う…、

そのー…、自分さ、手合わして拝んで、言うのには、「よく自分さ、おっかながらない、汚がらないで、自分使つたー、お椀ですぐ、食べてくれたり、したりする。気持ちありがたい。」ちゅつて、

すごい喜んでくれて、で、自分も喜んで、あれーつて、話してるうちに、こんど言うのには、

「今晚、その十勝の、さ、行つたら、酒、飲む、もう、明日の、晩に酒飲む、支度して、いるとこさ行くから、行つたら、すごい喜んで、みんなに喜んでもらえる、その家、そしてその、晩に、釧路から、あー、そのー…、

(川上) トパットウミ topattumi (夜盗の群)。

(上田) なんちゅうんだ。シサム sisam (和人) で。

(吉原) うーん、

(大谷) 強盗か。

(吉原) あ、夜盗。

(川上) いや、トパットウミ topattumi でいい。

(上田) トパットウミ topattumi 。

(吉原) うん。

(川上) おう。

(上田) トパットウミ topattumi、来るー、ことになつているから、その、行つたら、もう、絶対、自分が、あー、来たつて言わないで、そのー、いる人ら、みんな、家さ、年寄りでも子供でもあつ…、集めて、えー、いてーくれつて、そうすれば、自分、そのうち、行つてー、えー、その、来た人らに、征伐するから、

自分がやつたつていうこつたけは絶対隠して言わないでくれー。」つて、言つてー、あ、自分もたまげて、たまげて、たまげて、ああ言つて挨拶して、ありがと挨拶して、から、出て行つて、

「また、後で行き会うから。」つて出て行つて、でんど、その晩には、まあ、泊まつて、あくる日、その十勝のテトさ、出て行つたけ、早く着いて、案の定、そのー、酒飲む支度、みんなして、大勢、人集まつたところ行つて、え、自分、外でノックして、たら、入れてもらつて、入つてから、したけ、

「どつから来たー若者だ？」つて訊かれたから、

こういうわけで、「十勝のカツチから、あー、来たもんだ。」つたけ、もうすごいみんな喜んで、

(31) 石垣 (1991) によれば、「カツツ」とも言う。「川の上流地」という意味の日本語北海道方言。

(32) 註31の文献では「デド」と記載されている。「出入口」という意味の日本語北海道方言。

「いい時、自分ら、酒、今晚に、酒飲む支度していたもの、いいとこさ、若い者遊びに来てくれた。」って、

すごい喜んでくれて、自分も一、喜んで、いるうちのその一、もう夕方なつたから、

「部落の人方、みんな、うちさ集めて、ん、子供でも年寄りでも集めて、とその一、家は、この部落に、の家、まるつきり空き家のようにして、火も消して、ねー…、電気も消してまっ暗くして、え、いてくれー。」って言ったけ、まるつきり、その、したら不思議に一、思ったけど、こういうわけだつて、え、言うこと言いもしないで、いるうちにその一、酒飲み始まって、たけ、その一、みんな部落の人らも集まってしまつてから、酒飲み始まつたけど、その酒飲みも始まるもしないうちに、から、もう、みんな、居眠りして、え、眠たがつてるうちに、みんな、ころんころんと寝転がったと思つたけ、みんな、それ、イビキかいて眠っている、いるうちに、自分もこんど、その一、泊めてもらった家に火も消して、えー、まっ暗くして、いるうちに、

こん、したけ、そこさ、また入つて来たのはその、ミントウチカムイ mintuci kamuy、また入つて来て、え、したから、トゥキ tuki (酒杯) …、トゥキ tuki だか、お椀だかにいっぱい酒やつたけ、喜んで、

その酒飲んだりして、から、まだ、二杯目酒飲んだりしてから、でいるうちにその、うー、トパットウミ topattumi 来たらしくて、家のクルワ (周り)、こそこそ歩いた音する。

「どういうわけで、この部落にまるつきり、火、火の気もない、なんもない。空き家ばかりで、誰もいない、

どういうわけで、こんな部落さ、自分ら来たんだべ？」ちつて、まるつきり外、こそこそ話しながら歩いていて、音聞いて、いていて、そのうちにその、

ミントウチカムイ mintuci kamuy、また出て行つたけ、もう、外さ大騒ぎして、もう、な、泣くやら、吠えるやら泣くやらしていて、いるうちに、なんの音もなくなつてしまつたけ、またその、ミントウチ mintuci 入つて来て、

「もう、一人も逃がさないでみんな殺して、自分入つて来たけども、絶対、じ…、その自分来てやつたつていうこと言わないで、その一、若者が一人で、あの来た人らみんな、ク、クスル Kusur (釧路) は、から来た人ら、さ、殺したつていうこと、言え、言えがいい。」つて言つてから、

自分も、もうありがたい挨拶して、してからまた酒やつたけ、飲んでから出て行って、

「後から戻つて行くとき、また途中で行き会うから。」つて言つて、そこで出て行ってしまつていない後にこんど、自分も夜、眠つたりして、明日の朝になつて、

から、家の人ら出て行つたけ、外に知らない人ら、ころんころん、死んで倒れていたの見たけ、もうびっくりするやら、なにやらで、「どつから来た人ら、こんなに死んでいるべ？」つて、こういうわけで、「釧路から、あー、トパットウミ topattumi に来た人らみんな、自分一人で殺したんだ。」つたけ、もう、たまげて、たまげて、「その若い者来たおかげで部落全員みんな、助かつた。来なかつたら自分らもみんな死ぬんだつたの、殺されるのに、来たおかげで、自分ら助けてもらった。」ちつて、すんごい、喜んで、喜んでもらつて、

(約14秒間の無言)

(吉原) せっかくですから…、ごめんね。続けてもらつていいです。

(約10秒間の無言)

(上田) 喜んでもらつて、だからこんど、みんな部落の人ら、ありがたいちつて、いろいろなものをお礼するもの、いっぱい、みんな持って来てくれたけど、

(川上) 変なもの、お礼にもらわんくてもいいから、嫁、嫁寄せつて言つたのか。

(上田) 「もう、いらない、もの、自分、なんでつたから、その、ただ、その部落の酋長の娘だけ、自分は欲しいから、それを承知してくれるべか？」ちつたけ、もう、その部落の酋長も喜んで、

「それだら、なお良い、良い。」ちつて、喜んでくれて、だからそこに一、二日三日遊んでから、その娘、自分連れて来ることになつて、ついて来て、連れて来るようになってから、いろいろもの片付けて持つて、と一緒に戻つて来て、その、根つこの下さ、また来て、

泊まる支度して、なんかして、

(川上) そこさまた、ミントウチ mintuci 来たの。

(上田) 食べる支度したりしたけ、その、娘、まだ眠たがつているから、「寝てもいい。」ちつて、

寝かして、眠つていたけ、また、そこさそのミントウチカムイ mintuci kamuy 入つて来て、もう、自分もほんとにありがたい、話言つて、いろいろ言つてるうちに、こんど、絶対自分さ、その、

「父親さ、こういうわけだつていうこと言つてもいいけど、母親さ、自分の連れて来た女さ、ミントウチカムイ mintuci kamuy のおかげで助かつたつていう人、ということ言うな。」つて言われてから、で、

「いろいろつから、その自分さ、酒やらなにやらで、えー、天国さ、自分さ、あ、祭つてくれればいから。」つていうこと、言つて出て、出て行ってから

自分も、その手合わして拝んで拝んで、こんど、それからかえ…、戻つて来て、自分の家さ着いて、から、

先に自分入つて、から、代わり母親出て、その連れて来た女、女と挨拶してから家さ入つて、出てから、

どう、父親に、こそこそ（ひそひそと）、  
「こういう、こういうわけで、ミントウチ mintuci に  
助けてもらったおかげで、助かって来た。ミントウチ  
mintuci がいなかったら自分も、知らないで殺されるん  
だったもの、ミントウチ mintuci のおかげで助かって  
来て、え、その、天国さ祭ってくれ。」っていうこと  
言って、行ったからっけ、

もう、父親も喜んだやら、ありがたいやら、言って  
言って、とすぐ、支度して、酒、支度して、酒ってや  
ら御幣やらで、天国さ、送ってやってやら、もう、ほん  
とに幸せな生活してるうちに、十勝さも、遊びに行っ  
たり、その若い人も自分のとこさ来たり、もうもう、み  
んな部落の人ら方、遊びに行ったり来たりしてるうちに、  
自分の親も年が年だから、もう、亡くなる。

十勝のテトの人らも亡くなった後に、立派な幸せな生  
活して暮らしたから、こういうわけで自分は、

そのミントウチmintuciのおかげで助かったんだから、  
子供らもそれを忘れないで、え、祀ってくださいちって、

（川上）ミントウチカムイ ノミ mintuci kamuy  
nomi（河童の神を祈れ）すれーって。

（上田）ある若い者がオンネ onne（死ぬ）したって  
いう話だ。

## 参考文献

- アイヌ民族博物館(編) 2015. アイヌ民族博物館 民話ライ  
ブリ2 上田トシの民話2. 一般財団法人アイヌ民族博物  
館.
- 石垣福雄 1991. 増補改訂版 北海道方言辞典. 北海道新聞社.
- 稲田浩二、小澤俊夫(編) 1989. 日本昔話通観 第1巻 北海道  
(アイヌ民族). 同朋舎出版.
- 稲田浩二、大島建彦、川端豊彦、福田晃、三原幸久(編) 1994. [縮  
刷版]日本昔話事典. 弘文堂.
- 大谷洋一 2014. カムイからの意思伝達のあり方—北海道アイ  
ヌの散文説話を中心に—. 口承文芸研究第三十七号. 日本  
口承文芸学会. pp. 114-126.
- 久保寺逸彦 1977. アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究. 岩波書店.
- 久保寺逸彦 1994. 平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート  
調査報告書(久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿). 北海  
道文化財保護協会・北海道教育庁生涯学習部編.
- 国立大学法人千葉大学 2015. アイヌ語の保存・継承に必要な  
アーカイブ化に関する調査研究事業第2年次(北海道沙流郡  
平取町)調査報告1/3. 国立大学法人千葉大学.
- 国立大学法人千葉大学 2015. アイヌ語の保存・継承に必要な  
アーカイブ化に関する調査研究事業第2年次(北海道沙流郡  
平取町)調査報告2/3. 国立大学法人千葉大学.
- 小松和彦、常光徹、山田奨治、飯倉義之(編) 2013. 日本怪異妖怪  
大事典』東京堂出版.

更科源蔵、更科光 1976. コタン生物記II野獣・水鳥・魚族篇. 法  
政大学出版局.

更科源蔵、安藤美紀夫 1977. 17 北海道の伝説. 角川書店.

更科源蔵 1981a. アイヌ伝説集 更科源蔵アイヌ関係著作集 I.  
みやま書房.

更科源蔵 1981b. アイヌ民話集 更科源蔵アイヌ関係著作集  
II. みやま書房.

田村すず子 1996. アイヌ語沙流方言辞典. 草風館.

田村すず子 1997. アイヌ語音声資料10. 早稲田大学語学教育研  
究所.

中川裕 2002. アイヌ口承文芸テキスト集3 白沢ナベ口述 ト  
パットウミから逃れたウライウシナイの少年. ユーラシア  
言語文化論集 第5号. 千葉大学ユーラシア言語文化論講  
座. pp. 111-143.

日本民話の会(編) 2002. 決定版 日本の民話事典—読んで面  
白い ひいてわかり易い. 講談社.

野村純一(編) 1991. 別冊國文學・NO. 41 昔話・伝説必携. 學燈  
社.

パチラー, ジョン 1938. アイヌ・英・和辞典 第四版. 岩波書店.

---

## Ainu Oral Literature "*Uwepeker*": The Story of the Man Who Was Saved by the Kappa

Yoh-ichi OHTANI

---

This text is a transcription of an Ainu language recording of Ms. UEDA Toshi (1912–2005) from Penakori in the town of Biratori in Saru-gun.

In the story, a god known as *mintuci kamuy* in the Ainu language appears. The Japanese translation of the term is kappa (a type of water spirit). There are only nine stories recorded in the Ainu language, including this one, in which the kappa appears. This story is about the behavior of the kappa, told through the eyes of the main character – a human. Another characteristic is that the kappa

that appears is of male gender.

In this story there is a scene in which, in return for helping the human, the kappa asks the human to worship him as a *kamuy* (god). It is normal for the various gods that appear in Ainu stories to appear in humans' dreams and make such requests. However, the fact that the kappa met with the human directly to convey his intentions suggests that the kappa's existence is exceptional among the gods.